



子どもを被害者にも加害者にもさせない
松前町と伊予署 自転車利用に関する協定を締結

松前町と伊予警察署は9月18日、児童・生徒を交通事故の被害者にも加害者にもしないために、小学生、中学生が自転車に乗るときのマナーアップを目指す「松前町児童・生徒にかかる自転車の交通違反情報連絡制度に関する協定」を締結しました。協定では、危険な交通違反行為の場合、子どもにイエローカードを交付し、注意喚起を促します。

町役場で締結式があり、永見修一教育長は「子どもたちの意識向上はもちろん、子どもたちがルールを守る姿を見て、地域の大人のマナーアップを期待する」と挨拶。伊予警察署の富田雅重署長は「子どもに限らず『自転車のマナーが悪く、危ない』という声を聞く。協定で、町内の交通事故がなくなることを願う」と話しました。



①農業生産法人あぐりで施設の説明を聞く参加者 ②松山容器(株)で分別の様子を見学 ③オオノ開発(株)



災害時に応急対応で協力

松前町と2団体 復旧対応で協定を締結

松前町と町土木部会、県電設業協会は8月29日、災害時の応急対応業務の協力に関する協定を締結しました。協定では、同部会は被災した道路や住宅の応急処置、仮設トイレなどの手配に当たります。同協会は、指定避難所などへ資機材を提供します。

町役場であった調印式では、白石勝也町長が「これまでさまざまな団体と協定を交わしてきたが、万が一の復旧に関するものがなかった。幅広い支援を期待する」と挨拶。部会の岡邦彦部会長は「日ごろから連携し、地域に貢献できる活動を目指します」と、協会の小関真博会長理事は「真っ暗な中に灯りをともすことが安心につながる。いざというときは迅速に対応したい」と話していました。



親子でリサイクル施設を探検

松前町子ども環境学園 2012「5R探検隊」

家庭から出るごみの行方を追いかけて、分別、リサイクル、埋立を行う施設を見学する「5R探検隊」は8月21日、子ども環境学園の学園生とその保護者を対象に行われ、38人が参加しました。

松山容器株式会社では、缶、びん、金属、プラスチックなどを分別する様子を見学。参加者一同、手作業での分別や臭いに驚いていました。エミフルMASAKIでは、従業員用のごみ庫や6月に新たにできたエコステーションを見学し、各店舗から出てくるごみ約130トンを33種類に分別している説明に関心を集めていました。

東温市にあるオオノ開発株式会社では、埋立を行う最終処分場と焼却・発電プラントを見て、施設の大きさと、環境のことを考えた会社であることにみんな驚いていました。松前町にある農業生産法人あぐりでは、せんてい枝の堆肥化施設を見学し、全国的にもめずらしい施設であるなど、丁寧な説明を受けました。



笑顔ずっと 長寿祝福

平成24年度長寿者訪問

9月17日の敬老の日を前に、白石勝也町長と岡井馨一郎町議会議長は、100歳以上の高齢者を訪問し、長寿を祝いました。

本年度の対象者は32人。9月3日から5日までの3日間で、個人宅や福祉施設など20カ所を訪れ「100歳を超える長寿を保たれていますことは、松前町民の誇りです。これからもお元気で長生きしてください」と、一人一人に声を掛けながら、お祝い状と記念品を贈りました。

今年100歳を迎える池田文子さん＝筒井＝は、お祝い状を笑顔で受け取り、家族、施設の入所者や職員の温かい拍手に対して、「幸せです。ありがとうございます」と元気いっぱい手を振り返っていました。



④岡井議長から長寿の祝福を受ける池田文子さん(100歳) ⑤町内最高齢者の西村ヨシ子さん(106歳) ⑥左から今年100歳を迎える濱川ミツギさん、頼藤キヨコさん、小迫ツネさん、大西幸子さん、山本悦子さん



⑦全ての演目終了後、出演者が舞台上で挨拶 ⑧横山たかし・ひろしの漫才 ⑨笑い声が絶えない客席



心から笑って元気に

敬老上方お笑いオンステージ

65歳以上を対象とした敬老事業「敬老上方お笑いオンステージ」は9月15日、松前総合文化センターで開催されました。

ステージは、チキチキジョニーの漫才でスタート。その後、サンデー西村のバイオリン漫談、笑福亭枝鶴の落語、そして、松前町が生んだ大スター横山たかし・ひろしの漫才と、4組の出演者が多彩な演目を繰り広げ、客席を埋めた皆さんを楽しませていました。演目後、横山たかしさんは「お元気で。また来ます」と客席に呼び掛け、名残惜しそうに舞台を後にしました。

昨年に引き続いて参加したという大政掌さん＝上高柳＝は「たくさん笑わせてもらいました。特に横山たかし・ひろしさんのふるさとの漫才は、親しみが持ててよかった」と喜んでいました。